

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800125		
法人名	親愛ケアサービス(有)		
事業所名	グループホーム親愛		
所在地	千葉県市川市曾谷4-4-10		
自己評価作成日	令和元年12月25日	評価結果市町村受理日	令和2年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	20令和2年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から10年目に入り、顔なじみの職員もおり、また新しい職員も研修などを行い職員の成長と共に安全・安心な生活環境を提供できております。更に個々の散歩や外出、外食に時間をかけたり、毎日、掃除や食器の片付けをしたりと、1人ひとりの生活を大切した個別支援に重点を置くサービスを提供しております。リビングでは家庭的な雰囲気を保ちつつ、毎日の体操やレクリエーション、季節の行事を催したり、利用者家族やご本人からの聴取によりその方のできる能力生かしたケアプランを作成し、毎日の日課に出来る事を組み入れ、認知症の悪化やADLの低下を防ぐよう活動的な生活を過ごしていただいています。グループホーム親愛の理念に基づいて利用者の安心と生きがいある暮らしを目指し、利用者の笑顔を引き出せるよう全職員日々努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. JR市川駅から車で8~10分の閑静な住宅街に立地した3階建て鉄筋コンクリート造りの施設です。1階を系列の小規模多機能型施設、2、3階をグループホームが使用しており、各種行事、消防訓練、ボランティアの受入れ、利用者の交流、看護師兼務、職員研修等で協力し、効率的に運営しています。
 2. 落ち着いた雰囲気の中、利用者寄り添った介護を心掛けており、家族アンケートでも好評です。各種改善事例(排泄、精神の安定、歩行等)がある他、2組の夫婦が入居し内1組は8年間入所時の介護度を維持しています。平均年齢86.5歳で平均介護度2.8と低く、比較的元気に過ごしています。
 3. 月2回の訪問診療医師による24時間オンコール対応、歯科医の必要時来訪、非常勤の2名の看護師体制で看取りを行う他、病院や系列の特養施設の選択もあり、利用者・家族に安心感があります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立支援、個人の生き方を尊重し、地域との連携や交流を深める事を、理念に取り入れ、事務所・リビング・玄関等に掲示し、スタッフ間の共有・実践に心がけている。	グループホームの主旨である地域密着性を織り込んだ3か条の理念を各所に掲示し、全体会議(月2回)で唱和して常に確認し、日頃のサービスで実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り、ふれあいの集いに参加したり、地域の掃除をしたりしながら馴染みの関係作りを行っている。	自治会に加入する他、地域の盆踊りや、市福祉課主催の「ふれあいの集い」に参加しています。又、ボランティアの受け入れ、自発的な公園のごみ拾い、駆け込み110番や地域パトロールを引き受ける等、地域に根差しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを活用し、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けていかしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に一度定期的に実施。 事故報告と利用者様へのサービスについて話し合い、サービス向上に繋がれるようにしている。	会議は、年6回、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、利用者、家族、職員で開催しています。議題には、状況報告、活動報告、ヒヤリハット事故報告、外部評価等を取り上げて意見交換し、サービス向上に活かしています。	
5	(4)	0 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて、相談や質問に出向いたり、事故報告を提出し、連携と情報交換をしている。	管理者は、必要な都度市担当に報告・説明しています。又運営推進会議に必ず地域包括支援センターに出席して貰い、その情報や意見を運営に役立てています。行政、関係機関からの介助困難者受入れ要請には、常に前向きに対応しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の委員会を3ヶ月に一度開いて、身体拘束廃止に向けた取り組みを行っている。	玄関は交通量が多い通りに面している為、昼間も施錠しており、適時利用者の状況を見て声かけや、外に連れ出す様にしています。又昨年からは身体拘束廃止委員会を設置して3か月毎に開催する他、職員研修を年3回行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外・社内研修を通じて職員の質の向上に努め、研修後も資料の回覧やミーティングの場を持ち情報を共有出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内・社外研修以外に、成年後見制度を利用している方が数名いるため、実際に後見人が付くまでの流れを身近に見られる環境にあり、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はご家族に分りやすく説明し、時間をかけ解かりづらい部分を質問していただきながら納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪の際に、その都度要望を聞いている。	利用者については、介護相談員を毎月2名受け入れており、その情報を活かす様に努めています。家族については、訪問時、電話連絡時、運営推進会議時に意見・要望を聴き、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等で意見を聞く事も多いが、日常の会話の中で意見を聞く事が多い。	管理者は、職員から話しやすい雰囲気を作り、毎朝日報を見て話しかけたり、全体会議やリーダー会議で職員の要望・意見を汲み取り、運営に反映する様に努めています。	年間行事計画を作成しているものの、予算不足で十分に実施できないというのですが、遠出も含めグループホームとしては標準的な計画なので、本部の理解と協力を得て、実行に移すことが望まれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務状況の把握に努め全ての職員が不満なく就労してもらえよう、給料水準、労働時間、有休などの整備に留意しながら各自の向上心を促せるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に認知症介護を理解してもらい、介護で発揮できるよう指導したり外部研修に参加させ、各利用者様にあった個別の対応を出来るよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への訪問などにより、情報交換、意見交換の機会はあるが、現場レベルでの職員が交流するような機会はまだ持てない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談業務、家庭訪問をセッティングし、その中で安心と信頼がめばえるように力を注いでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定にあたっては、ご家族の意向や生活歴などをヒヤリングしながらご家族の不安を解消し、これからのより良い家族関係構築を提示		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	紹介者等の情報交換により、今の段階ではどのサービスが最適かを相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で本人と職員との関係は、友人、親と子、祖母と孫など、さまざまな形を取ることもあり、その中で利用者様に様々なことを教わりながら、共に支えあえる生活をおくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えるチームとしてご家族と職員が共同の形で手を取り合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の来訪や外出、電話なども行いながら、馴染みの場所で、友人と出会える可能性のある外出の仕方など工夫して、安心できる環境に住んでいる状態を保持している。	家族の訪問は、2日に1回や数カ月に1回等様々です。家族と一緒に外出や外食に出かける人や、携帯電話を使って家族等に連絡する人があり、手紙を出したい人には出状の手伝いをしたり、地域の人が訪ねやすい様ポスターを貼る等の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゆったりとした雰囲気の中で、交流し合えるように努めている。孤立したり、けんかしたりしないように、日々の生活の中での変化を見逃さないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者がした場合これまでの関係性を大切にしながら必要に応じた支援を行えるよう支援できるよう努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉にならないアプローチや、ご家族の知らない希望もあり、その人の今現在の意向を察知してあげることに努めている。	入所時に把握した生活歴や本人、家族からの聞き取りから、将棋や裁縫、食器洗い等の要望の実現を支援しています。困難な場合でも、日常の様子から思いや意向を把握し、個々に沿った支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からのお話や、それまでの介護職員からの話しなどから、どんな生活歴なのかをはあくできるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活の気付いた点、対応した点をすべてその日のリーダーに報告して、それを理解記録し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心に作成した介護計画も日々の見直しを家族と相談しながら、希望を汲み取れるように努めている。	家族からは来訪時に意見等を聞き、個々のケアプラン実施チェック表を参考に、月1回のフロアミーティングで話し合い、介護計画を作成しています。月1回モニタリングを実施し、特別な変化が無ければ半年で見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やスタッフ間の連絡ノートなどを活用しながら日々のケアや介護計画へ反映できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族とも連携しながら、ご本人、ご家族の希望に応じ、一人ひとりの24時間に対して柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を持ちつつ、心身の力の発揮に繋がるような地域のイベントなどに参加を継続しながら、より交流を広げられるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりのかかりつけ医との関係の継続、又ホームドクターとの新しい関係の構築の中で安心して医療が受けられている。	入所前のかかりつけ医に利用者2名が継続し、家族が付き添っています。2カ所の訪問診療医の利用は、本人・家族が自由に選択でき、24時間安心できる医療のサポートをしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職からの情報、気づき等をもとに、医師の指示や服薬の細かい点の相談をしたり、細やかな情報を待ちより適切な医療、看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中もこまめに面接に行き医師、看護師から状況を確認するようにしている。また、本人やご家族の希望が円滑に伝わるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より重度化の必然性を理解していたが、その時がきたら、すべての関係者が協働して支援してゆけるように努めている。	入所後重度化した時、管理者、ケアマネージャーが家族と話し、同意書を貰っています。昨年は1名の看取りを行いました。系列の特養や病院医移る等も選択できる支援をしています。職員へは緊急対応マニュアルで研修をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中、夜間それぞれの緊急対応マニュアル化し、実際に起こった急変・事故などの事例を用いて反省点を検討し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと年2回の避難訓練を実施している。水害、土砂崩れ、夜間の人員配置での避難訓練は今後の課題となっている。	年2回の消防訓練(消防署立ち合いと自主訓練)を実施しています。スプリンクラーははじめ一連の防火装置・機器は完備し、鉄筋コンクリート造り3階建てで外部非常階段になっており、地震、水害、火災には強い造りです。只備蓄がないのは大いに問題です。	昨年の台風等による千葉県下の被災状況からも、①夜間想定消防訓練の実施、②年1回は防災訓練の実施、③備蓄(水・食料5日分以上、熱源、電源、防災用品等)の充実、が早急に望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や生活を尊重し、声掛け(特にトイレや入浴時に)でプライドを傷つけないように心掛けている。	月2回の全体会議や月1回のフロアミーティングで、プライバシーに関する研修を実施しています。呼びかけは基本「～さん」で統一しています。問題があれば、必要に応じその場ですぐ指導するようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服選びや日々の本人の意向をキャッチし、それが自己決定、自己実現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを保ちつつその人その人のペースを尊重した支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問カットを利用し、整容やおしゃれの意欲がうしなわれないような声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、食事形態が調理済みの食事になりメニューも決まっていますが、たまに、レクレーションなどで、食事を作ったり後片付けなどは、ひとり1人の技量にあわせて役割とやりがいを持てる生活を提供している。	食材は毎日、メニューは週1回業者から届けられます。利用者のうちできる人は、食器を洗ったり、拭いたり、配下膳を手伝っています。ホームでは個々に合わせた刻みやトロミの提供をし、誕生日にはケーキを作って喜ばれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者に食事を委託し栄養バランスを考えた食事になっている。水分量は一人ひとり記録し水分量が確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	提携している歯科医に定期的に診察してもらい、相談し、徹底した口腔ケアを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に心掛け、声掛けなどで、トイレの排泄をおこなえるようにし、リハパンを布パンツにするなど、自立に近づけるよう支援している。	排泄表を参考に、リハビリパンツ使用の10名は見守り支援で、他は声かけてトイレ誘導しています。オムツからリハビリパンツに改善した事もあり、トイレでの自立・見守り支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の解消は生活の重要なポイントなので、排泄誘導、散歩、体操などで自然な排泄を行えるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴原則だが、その日の体調、本人希望によりとりやめることもある。中には入浴拒否傾向の人もあるので、声掛けにて入浴できるよう支援している。	入浴は週2回で、月曜～土曜(10:00～12:00)の時間で、1日3名一人30分程行っています。普通浴が無理な人には、2階の機械浴を使用し、支援しています。ゆず湯やしょうぶ湯で季節を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息(昼寝も含めて)本人の希望により、スタッフの判断で随時行っている。安眠の為に運動、体操など行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師を要れ薬の管理をしている。薬に関する情報や服薬指導も受けている。薬表を各階に置きスタッフがいつでも閲覧できる状態にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で役割を求めている人が多く、少しずつでもできる範囲で支援している。楽しみごと、集団、個人で行えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩、買物、外出などは日常的に行い、町の行事へも参加している、ご家族と外出する際は支援している。ご家族が対応できない場合は支援している。	天気の良い日には、近くの公園まで数回に分けて2～3名を10分程散歩に出かけています。職員と買い物や家族と外食に行く利用者もいます。イベントでは初詣、夏祭り等を企画し、家族にも声かけし、バスで紅葉見学に行く等支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に応じて、おこづかいを持っている人などがある。盗難防止の為、基本的にはお金を持ってこないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい人はその都度支援。携帯電話を所有している利用者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に光と風が入ってくる空間を作り、きれいな空気の中で過ごし、内外で季節を感じられるような環境づくりに努めている。	リビング兼食堂は、明るく、清潔で、やや手狭ですが畳敷きの空間もあり、季節・行事に合わせた飾りつけ、写真等もあり、高齢者に合わせた懐かしい曲をBGMで適時流す等、利用者が居心地よく過ごせる様にしています。職員は相性を考えて席を配置しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	内と外にベランダ・和室をつくり、ひとりになったり、話し込んだり(スタッフとも)できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみの品々に囲まれた部屋づくりを心がけている。家族の写真など部屋に飾ったりしている人も多い。	居室は、エアコン、カーテン、ベッド(レンタル制)が備え付け又は準備え付けになっており、清潔で適度の広さもあり、利用者が快適に過ごせる様に配慮されています。転倒防止の為、床に布団敷きにしている人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の行動、心身状態を読み取り「出来ないこと」「わからないこと」のみ支援してあげれば、安全の中で「できること」を保って、自立して暮らしていける。		